

平成 11 年度事業報告

1 会員状況

1.1 法人会員および団体会員

級 種	平成 11 年度末	平成 10 年度末	増 減
1 級	13 社	13 社	0 社
2 級	9 社	11 社	- 2 社
3 級	20 社	20 社	0 社
4 級	24 社	25 社	- 1 社
5 級	100 社	99 社	+ 1 社
計	166 社	168 社	- 2 社

1.2 個人会員

種 別	平成 11 年度末	平成 10 年度末	増 減
普通会員	1957 名	2000 名	- 43 名
学生会員	111 名	92 名	+ 19 名
計	2068 名	2092 名	- 24 名

1.3 名誉会員 (14 名)

阿河 利男 阿部 芳郎 荻野 圭三 北原 文雄 小森 三郎 櫻井 洸
佐々木恒孝 豊口 満 西 一郎 橋本哲太郎 早野 茂夫 松本 太郎
森 昭 渡辺昭一郎

2 会務

2.1 総会

第 45 回通常総会を、平成 11 年 3 月 30 日、東京駅ルビーホールで開催した。委任状出席を含め 935 名の出席を得て議案を審議し、いずれも原案通り承認可決された。本年は定款の変更、代議員および役員選任規程が上程され、承認された。

(1) 日本油化学会功績賞が渡辺 昭次氏に贈呈された。

(2) 平成 10 年度日本油化学会賞等が次の各氏に贈呈された。

学会賞 成蹊大学工学部 戸谷洋一郎 氏

進歩賞 物質工学工業技術研究所 黒澤 茂 氏

総会に引き続き同所で懇親会が開かれ、63 名の出席があった。

2.2 理事会

第 315 回より第 318 回まで 4 回開催し、平成 10 年度一般会計・特別会計決算案および平成 11 年度同予算案、平成 11 年度運営委員、各業務委員・専門部会員・支部長等の選任、次次年度年会開催地の選定および実行委員長を選任、名誉会員の推戴、日本油化

学会功績賞および日本油化学会賞等の選定など、重要案件について審議決定した。さらに、行事内容、会計収支、各業務委員会・専門部会および支部の報告に基づき、その内容について検討した。新規事業として、創立 50 周年記念事業を計画・推進する 50 周年記念事業委員会および学会の将来構想についての諮問を受けるミレニアム委員会をそれぞれスタートした。

出席理事 延 68 名、委任状提出理事 延 8 名、出席監事 延 7 名

2.3 運営委員会および業務委員会等開催状況

- ・運営委員会は第 304 回より第 309 回まで 6 回、運営懇談会 1 回が開催された。

伊藤俊洋副会長・運営委員長が、英国ブライトンで開催された第 23 回 ISF 世界会議に参加し、当会代表としてボードメンバー会議に出席した。

- ・業務委員会は延 68 回開催された。

定款変更の主務官庁への許可申請と許可の取得、定款変更に伴う細則・規程及び内規の見直し改訂、会員名簿の作成準備、税務に対応した会計システムの構築、専門部会活動の調整強化とフレッシュマンセミナーの構想作成、会誌分冊の準備、日米油化学会世界会議開催の準備、50 周年記念事業委員会の発足等のほか、NMR による DHA の測定、トランス脂肪酸、2 位脂肪酸の分析法の検討などの活動がなされ、多くの成果をあげることができた。

和田 俊 IUPAC 小委員会主務が、昨年に引き続き IUPAC 会議に出席した。

内訳 総務、定款細則改訂委員会	8 回、	役員推薦委員会	2 回
財務、広告委員会	3 回、	学会賞選考委員会	2 回
企画・部会統括委員会	6 回、	功績賞推薦委員会	2 回
編集委員会	11 回、	規格試験法委員会	18 回
JAWC2000 委員会	10 回、	50 周年記念事業委員会	6 回

- ・若手の会委員会 5 回

サマースクールの開催、若手の会ページの改革など活性化に取り組んだ。

3 事業報告

3.1 専門部会および支部活動状況

(1) 支部行事

関東支部 常任幹事会 3、幹事会 1、事業企画委員会 1、見学会 1、交流会 1

東海支部

関西支部 常任幹事会 5、幹事会 3、見学会 1

(2) 専門部会および支部による講演会・セミナー等の開催状況。

専門部会および支部による講演会・セミナー等は延 27 回開催され、参加者数は延 1628 名を数えた。講演いただいた講師の先生方は延 124 名であった。

・専門部会	開催回数	15回、参加者数	延 1043名
・若手の会	開催回数	2回、参加者数	延 86名
・関東支部	開催回数	2回、参加者数	延 108名
・東海支部	開催回数	3回、参加者数	延 147名
・関西支部	開催回数	5回、参加者数	延 244名

3.2 日本油化学会誌

(1) 会誌発行状況

第48巻第1号～第12号、総ページ数 1702
 普通号 10回、特集号 2回(5月号、10月号)
 発行部数 2800部/月

(2) 掲載内容

報文・ノート・速報	邦文 43件、欧文 43件、	552ページ
総説	邦文 42件、	410ページ
研究文献抄録	340件、	88ページ
その他記事		402ページ
会務・会告等		243ページ

(3) 論文誌と情報誌の分冊

2001年1月号より、日本油化学会誌をオリジナル論文を中心とした学術誌(英文誌)と学術的啓発と情報を中心とした学会誌に分冊することになり、会誌の名称はそれぞれ「Journal of Oleo Science」および「オレオサイエンス」になった。

3.3 日本油化学会年会

山根恒夫副会長を委員長とする実行委員会を組織し、東海支部の協力のもとに日本化学会の共催を得て行った。参加者は427名に達し、盛況であった。

期 日 : 平成11年10月20日(水)～21日(木)

会 場 : 名古屋国際会議場

内 容 :

1. 特別講演(2件) 10月20日(水)

キュービック液晶と高内相比乳化への応用	横浜国立大学	国枝 博信氏
化学分解性を有する界面活性剤の設計と物性	大阪市立工業研究所	武田 徳司氏

2. 受賞講演(2件) 10月20日(水)

含フッ素化合物の合成と応用	物質工学工業技術研究所	黒澤 茂氏
機能性高度不飽和脂質の調製と酸化防止	成蹊大学	戸谷洋一郎氏

3. 一般講演 10月20日～21日

一般口頭発表 163件

4. 懇親会 10月20日

名古屋ガーデンパレスで開催され、210名の参加者があり、懇親の輪を広げた。

5. 第8回 JOCS オイルカップスポーツ大会 10月19日

なごやかな雰囲気のもと、テニス（参加者11名）とボーリング（参加者9名）の大会が行われた。

3.4 日米油化学会世界会議（JAWC2000）

1999年5月、米国オーランドで AOCS 年会会期中に JOCS 側委員と AOCS 側委員の会合が開かれ、双方の準備状況の確認ならびに意見交換が行われた。2nd Circular は日本油化学会誌 49 巻 1 月号、2 月号に掲載するとともにホームページに公開した。なお、このホームページは AOCS のホームページとリンクしている。同時に冊子を作成し、希望者への配付を行っている。

3.5 創立50周年記念事業

戸谷洋一郎実行委員長のもとに、第1回実行委員会において事業内容および業務分担を確認し、第2回実行委員会において推進母体となる総務小委員会をはじめとし、財務小委員会、50年史出版小委員会、便覧改訂小委員会など各業務を担当する11の小委員会を設け、それぞれの委員会委員を選任した。50年史編纂、油脂化学便覧の改訂など検討に時間を要するものから作業が開始された。

3.6 ミレニアム委員会

大場会長による提言（会誌 48 巻 8 号、同 49 巻 1 号）を受けて、島崎弘幸委員長のもとに、9名の委員が参加し、21世紀における日本油化学会のあるべき姿を検討し、諮問するミレニアム委員会を発足した。

検討事項は、当学会の使命（存在事由）とその具体的目標の明確化、学会活性化のための具体的提言、財政の健全化のための施策、年会のあり方、支部、専門部会の存在目的、性格づけ、活動のあり方の再吟味、事業、業務の執行上の基盤の整備、学会の一層の国際化への提言、などがあげられている。